

宗像市市民参画等推進審議会会議録（要旨）

日 時	平成25年5月31日（金）13:30～:16:30
場 所	宗像市役所 201会議室
委 員	■ 井上豊久、□ 岡田祐一、■ 志岐宏美、■ 辻洋子、■ 東博子、 ■ 松永年生、■ 南博、□ 宮崎弘子、■ 吉田晴希 （五十音順、敬称略）
事務局	コミュニティ・協働推進課；古川、村上、吉永、中脇、福島、合島 むなかた市民フォーラム；梶栗、木村

1. 会長あいさつ

平成25年度提案、平成25年度実施の事業2件についての審査となる。
 審査方法について説明。

2. 協議事項

（1）市民サービス協働化提案制度審査

①個別審査

- 1、地島読書支援事業 提案団体；じのしまキャラバン 関連部署；図書課
 担当部署から、現状について説明。
 提案団体から、提案内容について説明。
 担当部署から、提案内容に対する意見説明。

●リクエスト以外の選書は図書課が行うのか。

⇒小学校に、2か月に1回100冊送っているが、その選書は図書課が行なっている。
 内容は、利用者像と利用実績を考え、20～30冊は絵本を準備。及び、前年度の同じ月
 によく読まれた本などを選んでいく。その場で読まれる場合は記録が残らないので、じ
 のしまキャラバンに情報収集をお願いする。

●展示は専門的なノウハウが必要と思うが、研修など専門的な育成の方向性は如何に。

⇒できるだけ島内の方に利用いただきたいと考えており、展示については本棚によっ
 て、そしてスペースによって違ってくる。学校あわせて、じのしまキャラバンと検討
 を進めたいと考えている。

●リクエスト本について、白浜に届いたものを小学校側に届けていただくことは可能に
 なるのか。

⇒島民の方であれば車両を所有されているので、可能になる。市職員は徒歩になるの
 で、その点が対応できなかった。

●どうしてこの事業を手がけようと思われたのか。

⇒最初は図書課から相談を受けた。2年ほど前から、情報を島民に知らせる役割を担

ってきたが、その中で、地域の方が本を借りに来られたり、会話の輪が広がるなど、良い部分が見え始めた。これを継続、発展させたいと思った。

●経費について、利用促進費の説明を。

⇒年間2回を2人で実施する。

●作業量や頻度は、もっとあるのではないか。

⇒ボランティアでの対応も考えている。

●図書課との連携会議についての説明を。

⇒集められた情報を聞いて、次の選書（入れ替え）に間に合うように選書をしたい。また常設本も古くなっているので、その入れ替えの参考とさせていただきたい。そのため近々に1回、年度末に1回の会議を開催したい。現場を見ながらの会議としたい。

●学校図書館は別にあるのか。

⇒別にある。

●白浜に作ったのは、地元の要望に基づくものか。

⇒用事がないと小学校に行かれない方々もいる。代理貸し出しも考えたが、自分の目で見て選びたいとの意見もあり、片方だけの集落に偏らないようにとのことから考えた。アンケートを実施し、自分たちの身近に欲しいという意見があった。

●本の破損や汚損が発生するのは現実。その点が負担とならないよう、団体と担当課の連携や協力体制を密にしていきたい。

●神湊や鐘崎周辺で本の小売店はあるか。

⇒ない。民業圧迫にはならないと認識している。

2、子どもの居場所づくり事業 提案団体；With Wind 関連部署；子ども育成課

担当部署から、現状について説明。

提案団体から、提案内容について説明。

担当部署から、提案内容に対する意見説明。

●予算について、居場所づくり事業というのはどのような施策に基づくものか。

⇒現在は、小学生の居場所づくりとして各コミュニティに委託している。それ以外で、居場所づくりの関係団体に、消耗品費を支援をしている。コミュニティへの委託料と本事業の積算金額の差は、プレーパーク事業は、怪我に対するリスクが高まるため、プレーワーカーが付く。プレーワーカーには専門性が求められる。

●新規事業になるので、事業に要している経費が示されるのは疑問だが。

⇒あくまでも市が実施した場合の、仮説で積算した経費である。

●青少年は居場所づくりにスタッフとして参加したことがあるのか。

⇒自由ヶ丘地区では独自事業に関わっていた。そのような経験を持った方が、全市的に関わっていくことになる。

●その独自事業以外での事業にも関わっていたのか。

⇒それはなかったと認識している。

●遊びに行政がどこまで関わるのか。子どもたちに時間がないなどの問題もある。メニ

ユーを用意するのではなく、もっと子どもたちの自主性に任せた方が効果があがるのではないか。

⇒それをするのがプレーパーク事業となる。プログラムは作らず、場所を提供するだけ。何をするかは子どもたちが考える。

●遊ぶ分を行政はできないから、提案団体に頼むことになっている。そういうことを団体に頼むことになると、子どもの遊びにつながらないのではないか。

●プレーパークは、子どもたちが自由にできる事業。青少年の居場所づくりは、プログラムがある事業になる。

●実態調査について、具体的にどのようなものか。

⇒アンケートは定期的実施したい。実態調査は、5年前に一回市の担当課職員が、現実に遊んでいるのかを、各公園に見に行った。そのような内容で実施したい。調査対象は市内の全ての公園。1ヵ所を月2回2時間程度。

●プレーパークと青少年の活動は、今のところそのつながりはないということか。

⇒何もしなければ集まらないということで参加がなかったので、プログラムは用意する。集まっていた中で、プログラムを組み立てることも考えている。プレーパークと同時に開催することで、接点を持った取り組みも考えていただきたい。

●調査費について、だれに支払うものと想定しているのか。

⇒調査員になる。メンバー以外にも支援を申し出られた方々もいるので、その力を借りたいと考えている。

●運営会議費の時給はだれに支払うものか。運営委員がメンバーであるならば、報償費ではなく賃金として計上すべきではないだろうか。事務局と整理していただきたい。

●企画運営費の具体的な内容は。

⇒月10,000円の積み上げとなる。材料費などに充てることになると思う。

●収支計画書の作り方としては問題があるので、事務局と調整いただきたい。

●ケガは自己責任という趣旨は理解できるが、リスクマネジメントについて、十分留意していただきたい。

●トラックレンタル料の用途は。

⇒出張プレーパーク実施の際、レンタル業者から借用したい。

●委託事務費の3%の根拠は。

⇒市の一般的な委託の積算基準を準用している。諸経費的なものと考えている。

●保険料が計上されているが、プレーパークの事故にも適用されるのか。

⇒見積中で精査した金額ではないが、プレーパーク事業にも適用する。

●事故に関する取り決めなどは、参加者とは行うのか。

⇒現状は、説明文書を作成して渡している。軽微なケガは貴重な経験として。大事故となるような要因は事前に取り除く。そのためのプレーワーカーとなる。発達に見合っていない遊びがないようにとの見守りも行う。他の先進事例地から、保険への加入を勧められた。

●今からのプレーパークにプレーワーカーが6人入ることだが、学校などにも周

知されるともっとプレーパークが知られるということになる。6人という人数は、もし増えた場合でも大丈夫なのか。

⇒全国的に見ても、6人の配置は多い方である。メイトムの状況、場所的に見通しが悪いや工具の使い方などを鑑みて、6人でも対応可能と考えている。

●コミュニティで、中高生の居場所づくりに取り組んでいる事例はあるか。

⇒自由ヶ丘でバスケットボールの取り組みがある。

関わっている青年の中には、専門的に学んだり、プロに近い活動をしているので、きちんとした指導ができると考えている。

●居場所づくりのスタッフ3人は、そのイメージで挙げられているのか。

⇒3人は基本で、手伝いにはもっと集まるということになっている。

～ 休 憩 ～

②総合審査

1、地島読書支援事業

各委員の採点表に基づき、協議。

●付すべき条件なしで、採択とする。

2、子どもの居場所づくり事業

各委員の採点表に基づき、協議。

●予算の見直し。費目の入れ替えだけでなく、積算内容も含めたところで担当課と再検討のうえ差し替え。居場所づくりについては然るべき時期に審議会として検証の場を設ける。その時期については、会長と協議する。これを付すべき条件として採択。

③その他

答申までのスケジュールについて、事務局から説明。

(2) その他の協議事項

①人づくりでまちづくり事業補助金2次募集について

事務局から、2次募集実施の有無について提案。人まちでは3件、島づくりでは1件追加採択が可能な状況である。

●2次募集については実施することとする。

②平成25年度スモールオフィス追加募集について

事務局から概要説明。1ブース分空きが出たため、募集中。選考方法については抽選とし、審議会には結果を報告することとしたい。

③その他

- 東部観光拠点の整備事業について、市民参画の視点から審議会として意見を述べたい。
 - 具体的な文案等については、会長、副会長に一任いただきたい。
- ⇒了承

3. その他

特になし。

= 散 会 =